

音楽を通してコミュニケーションを広げよう

対象の生徒

高等部 B 班 1～3年 生徒7名

学習集団の中での障がいの実態の幅が広い。特に視覚障がいを併せ有する生徒が在籍している為、活動には知的代替の内容+肢体不自由と視覚障がいへの配慮が必要である。どの生徒も教師の言葉を理解して動くことができるが、発語が難しい生徒や、自ら思いを伝える事が難しい生徒等、それぞれにコミュニケーション課題がある。その中でも今回は「自ら思いを伝える、人の話に耳を傾ける」の2点を共通課題とした。

教材・教具



・ドレミパイプ

手に持ってパイプを叩くことで音を鳴らす。旋律打楽器として扱うことができる。



・ドレミパイプ台 (自作)

塩ビパイプを台に乗せ、車椅子の生徒でも演奏しやすい位置で叩くことができる。

工夫したところ

視覚障がいの生徒も一緒にできる内容にするために、ダンスは身体模倣と音声模倣を組み合わせたものとした。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

音楽の授業の目標とコミュニケーション課題のどちらもねらえる内容で設定。

- ・ダンスダンスレボリューション (シャッフル8ビートにあわせて身体模倣・音声模倣)
 - ①教師のリードに続いて踊る。(教師の意図を読み取って踊る)
 - ②生徒が前に出てダンスをリードする。(自分で考えた振りを伝える)
 - ③友だちのリードに続いて踊る。(友だちの意図を読み取って踊る)
- ・ドレミパイプ「Faith」映画 SING より (ブルース進行に合わせて GCD の3グループに分かれて合奏)
 - ①教師と一緒に演奏してリズムとコード進行を覚える。
 - ②自分なりに担当の音を演奏する。
 - ③鳴らした音が曲に合う楽しさを感じる (音楽との一体感)
 - ④教師や友だちとリズムが合っていく楽しさを感じる (他者との一体感)

授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・見る力と聴く力が伸びた (教師や友だちのリードをしっかりと意識することができるようになった)
- ・自分の思いを表出できるようになった (リード役として自分がやりたい振り付けを友だちや教師に伝える)
- ・みんなで音楽を演奏する楽しさを表情から感じられるようになった (個々の演奏→集団で合奏する意識)